日本地域経済学会
第 31 回京都大会―学会創立30周年記念大会―

共通論題シンポジウム

◇テーマ

地域経済学の回顧と展望

◇趣旨説明

1989 年に日本地域経済学会が創設されて、今年で 30 周年を迎える。本学会は、「地域経済学に関して、研究者の交流・提携を図り、科学的な理論、分析、政策、及び歴史の分野における研究の発展を目的とし、地域経済の民主的発展に寄与する」（会則第２条）という理念を掲げ、経済学諸分野のみならず経営学や政治学、行政学、都市計画等の隣接諸科学とも協働しながら、年１回の大会や支部研究会を中心に活発な研究交流を積み重ねてきた。加えて、経済のみならず自然や政治、文化、共同体等の独自の性格を持つ統一体である「地域」の現場を何より重視し、アカデミズム内部での閉じられた議論をこえて、行政関係者や企業関係者、社会活動家を交えたシンポジウムや交流実践も展開してきた。さらに、「東日本大震災」後の科学的・社会的要請を受ける形で、日本国内の経済系学会の中で唯一「日本学術会議・東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」にも参画し、続発する多様で複雑な災害問題に対する歴史・現状分析や政策提言にも積極的に取り組みながら、「人間の復興」に基づく独自の「災害の地域経済学」構築を目指してきた。

そこで、30 周年という節目に当たる今年度大会では、「地域経済学の回顧と展望」というテーマを設定し、本学会を長年にわたり牽引してきた４名の会長経験者に登壇いただくことにした。報告者からは、30 年間にわたる本学会の活動実績を振り返りながら、日本における地域経済学の到達点と課題、さらには次世代の研究者に対する期待も込めた形で問題提起を発していただく。それを受けて、本学会で活躍する気鋭の中堅・若手研究者３名より、４名の報告に対してコメントをいただき、多角的に議論を展開してみたいと考えている。

果たして、日本地域経済学会は、これまで何を目指し、どのような領域を開拓し、どこまで成果を実現してきたのだろうか。また、地域経済学は、日本あるいは世界の社会科学の中でどのような学問的独自性を帯び、本学会は一体どのような学術的・社会的意義を発揮することが今後は求められているのだろうか。世代をこえた活発な議論を通じて、地域経済学の理論・歴史・政策ならびに本学会の発展の方向性等、これからの展望を描いてみたい。

◇登壇者

・報告者　　杉野 圀明（立命館大学名誉教授、第２代会長）
　　宮本 憲一（大阪市立大学・滋賀大学名誉教授、第３代会長）
　　中村 剛治郎（横浜国立大学名誉教授、第４代会長）
　　岡田 知弘（京都大学名誉教授、第５代会長）
・コメンテーター　池島 祥文（横浜国立大学）
　　長尾 謙吉（専修大学）

除本 理史（大阪市立大学）
・コーディネーター　山川 充夫（福島大学名誉・客員教授、第６代会長）

◇タイムスケジュール

10：00～10：10	開会・趣旨説明
10：10～12：20	報告①～③
12：20～13：30	昼休み
13：30～14：10	報告④
14：10～14：25	休憩
14：25～15：10	コメンテーターによるコメント
15：10～16：30	総合討論
16：30～17：00	若手自由論題賞表彰式・閉会